

◇愛のともしび事業

南三陸町の元副町長:遠藤健治さんから『生き方』を学びました。

2月12日(水)3・4時間目

3年生のみなさんは、南三陸町の元副町長 遠藤健治さんと ZOOM を繋ぎ、「防災」と共に、「生き方」を学びました。遠藤健治さんの話を食い入るように聞く姿や、配られた用紙の裏までメモを取りながら話を聞く姿がありました。

会の始めに、遠藤健治さんから「自分が一方的に話を進める時間ではなく、プレゼンの途中でも聞きたいことがあれば進んで質問してほしい。」という話がありました。話を聞きながら、何人もの生徒が、疑問に思ったことや、事前学習で持った疑問などを進んで尋ねながら、会は進んでいきました。

<本部運営を担う防災委員>

事前学習から当日の運営まで中心となって進めていました。



<各学級の生徒の様子>



事前学習を終えた生徒の振り返りの一部

事前学習の際、自分が遠藤さんの立場だったら、ということを考えてみました。「自分の命や自分の大切な命を優先したい」「被災者の方から罵声を浴びせられたら“諦めたい”」そう思うだろうなと思いました。しかし、今日の遠藤さんのお話を通して、『使命感の強さ』を感じました。遠藤さん自身、被災者の方の抱える行き場のない辛さは、町役場の人たちにぶつけるしかない状況を理解し、その思いを受け止めて、寄り添っていたことが分かりました。震災で、大切な方を亡くされたことは、思い出すのさえ、辛い経験だったと思いますが、日本の未来のために伝え続けてくださっているのだと思います。

今、私たちは、受験勉強の真っ只中です。努力しても結果が出ない時、本当に悔しいし、「このままでいいのか」と思ってしまいます。今日の話聞いて、この先、どんな苦境に立たされたとしても、仲間と共に前を向いて生きていこうと決めました。

遠藤さん自身、僕の想像を絶するような経験の中、副町長としての自分の仕事を全うしていたことを聞きました。自分は損得や、目先のことにとらわれてしまうことがあります。しかし、遠藤さんは、“南三陸町の方々のため”“自分のやるべきことをやりきるため”に考えて、行動し続けており、そんな遠藤さんの生き方に「憧れ」をもちました。僕自身も、そんな『自分の生き方を貫ける』ような人になりたいと思います。

罵声を浴びせられても諦めずに、被災者の方の声に寄り添い続けていました。そういった“思いやりの心”は震災の中だけで発揮されるものではないと思います。僕は遠藤さんの話を聞いて、日常の中でも「他人の気持ちに寄り添って協力し合える自分」や「これからの人生でどんな困難にあっても、絶対に心折れずに信念を貫ける自分」になりたいと思います。

本部運営を行った防災委員は、学習を終えて次のように話していました。

「卒業や受験を控える、この時期に防災教育・『生き方』学習ができてありがたかった。卒業を前に様々な場面で『自分の生き方』を問われることがある。だからこそ、遠藤さんの話を通して、自分を見つめるよい機会になった。本当に勉強になった。」



最後に遠藤健治さんから、川島中学校の3年生の皆さんへ力強いメッセージを頂きました。その一部を紹介します。

これからの人生の中で、困難なことや予期せぬ災害などに出会うこともあるかもしれない。しかし、どんな状況にあっても、あきらめることなく、心がくじけることなく前を向いて歩いて行ってほしい。大切な仲間との1日、一瞬を大事にしてほしい。

今週から3年生はいよいよ卒業証書授与式の練習もスタートします。生徒の皆さんの振り返りを読んでみると、遠藤さんから学んだ『生き方』を受け止め、力強く生きていく決意をもっているようでした。